

## 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」

### 兵庫県篠山市立今田中学校

#### 学校の概要

##### 学校規模

学級数：7学級（内特殊学級1学級）

生徒数：154人 準僻地校

教職員数：17人

##### 体験活動の観点からみた学校環境

人口4万7千人の篠山市の西南端に位置し、広大な緑の山々に囲まれ、小鳥のさえずりを耳にする、生徒たちの勉学にとっては理想郷である。

地場産業である伝統工芸丹波立杭焼の窯元がおよそ60あり活況を呈している。

農村地帯であるが、町の中心を国道372号線が走り、すぐ近くを複線電化となったJR福知山線が走るなど、宅地開発も進み、コンビニをはじめいくつかの企業も進出してきている。

学校教育に対する保護者や地域の関心は大変強く、協力的である。

「トライやる・ウィーク」には、県下でも先進校として取り組みを進め、今年で5年目を迎えるが、この活動に対する地域の理解と支援もまた大きい。

総合的な学習の時間や選択教科等の時間に地域から特別非常勤講師を招聘したり、保護者から豊富な情報が提供されることが多い。

##### 連絡先

〒669-2153

兵庫県篠山市今田町今田新田11番地

電話：0795-97-3160

FAX：0795-97-2376

電子メール：

cyu\_konda@city.sasayama.hyogo.jp

#### 体験活動の概要

##### 活動のねらい

生徒たちに時間的・空間的なゆとりを確保し、その中での実体験とそれに伴う多くの人間関係を体験させ、社会の厳しさ、新たな自己の発見、自己有用感などにつながる感動を体得させる。

地域の教育力を効果的に活用し、学校と地域とが互いに連携して生徒の活動を支援することで、開かれた学校づくりを推進する。

##### 主な活動内容・方法(位置づけ・期間等)

2学年生徒全員参加の教育課程内行事  
期間は連続して5日間・泊無し(6月)

幅広い選択肢(職場体験、社会福祉、芸術文化、勤労生産、交流等)から生徒個人の希望による体験内容の決定

学年単位での事前・事後指導

(総合的な学習の時間・学級活動・道徳)

##### 体制等の工夫

校区「トライやる・ウィーク」推進委員会の設置・傷害及び損害賠償保険加入  
地域商工会等との連携による受入事業所や指導ボランティアの開拓と確保

P.T.Aや自治会と連携しての啓発活動  
6月実施に向けて、早期(前年度3学期)より計画的な事前指導の実施

##### 活動の成果等

生徒が自分の力でやり抜く強さや、社会人としての自覚など、自分の新しい一面を発見できる良い機会となった。

この活動推進の継続により、生徒も教職員も地域と深く関わり、地域に支えられている自分を自覚することができた。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

- ア 生徒に時間的・空間的なゆとりを確保し、実体験を通して自己実現を図る。  
イ 多様な人間関係や、実社会の厳しさを体験させ、新たな自己を発見させる。  
ウ 地域に学び、共に生きる心・感謝の心を育み、自立性を高めるなど「生きる力」の育成を図る。  
エ 保護者、地域社会、関係諸機関との十分な連携を図り、開かれた学校づくりを推進して、新たな教育の創造につなげていく。

### (2) 全体の指導計画

ア 活動の名称  
「地域に学ぶトライやる・ウィーク」

イ 実施学年  
第2学年(2クラス54人)

ウ 活動内容



	事業所数	生徒数		
職場体験活動	22	40	販売業，製造業，飲食店 保育園，幼稚園，建築業，商工会	合計 ・事業所数 30 ・生徒数 59 (複数体験者 5)
社会奉仕体験活動	1	2	デイサービスセンター	
勤労生産体験活動	3	5	農業，酪農	
芸術・文化体験活動	2	5	絵画，染色	
交流体験活動	1	4	婦人会(調理，紙すき)	
その他の体験活動	1	3	環境調査	

### エ 教育課程上の位置付け

(ア) 教育課程内の特別活動の学校行事として位置付けており、6月中旬の月～金の5日間の職場体験を中心とした活動である。

(イ) 事前事後の学習は、総合的な学習の時間、学級活動、道徳の中で集中的に取り扱う。

### オ 実施期間(日数や時間数)

(ア) 日数 6月11日(月)から6月15日(金)までの5日間(30時間)

(イ) 時間数 ・特別活動 学校行事[2年:30]

学級活動[2年:4]・[1年:4]

・総合的な学習の時間[2年:14]・[1年:16]

・道徳 [2年:2] 合計 70時間

### カ 活動場所

校区内を原則として、受け入れの承諾をいただいた事業所の中から、各生徒が希望選択する。また、生徒のニーズに対応するために、隣接校区(丹南中、篠山中)内の事業所も開拓しており、電車やバスで通所した生徒もある。この場合の交通費は支給する。

### キ 継続の状況等

事前事後の学習に重点を置き、進路指導の視点も含めて自己選択の力や将来につなぐ体験としてとらえさせる。(具体的には2-(1)に記述)また、生徒と異世代の直接指導して下さった方との人間関係の構築と、その中での学びを大切に、地域で活動させていただくための基本的なルールやマナーの指導を重視した。そして、この4年間の「トライやる・ウ

ィーク」の成果が、総合的な学習の時間での地域学習や選択教科・福祉体験活動等への有機的なつながりへと発展しつつある。

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

ア 自分を知る(興味・関心・適性について)

イ 職業調べ(聞き取り調査)

身近な人や地域の事業所に出向きインタビュー

ウ 上手なアポの取り方・正しい敬語の使い方

エ 社会人講師の体験談

講師はサラリーマンからコンビニエンスストア店長に転職された方で、夢を大事にする生き方や苦労して働くことの大切さに共感することができた。

オ 職業調べ発表会

カ 「トライやる・ウィーク」のガイダンス, 事業所の希望調査と決定

キ 受け入れ事業所への生徒あいさつ, 事前訪問, 通所経路の確認

ク トライやる決意発表会(保護者説明会)

ケ 実習日誌, 服装, 持ち物, 連絡先, 緊急時の対応, 保険加入等の説明

コ 指導ボランティアの方への感謝の心, 礼儀とマナー

### (2) 活動の展開

ア 活動の場や施設

- ・ 回を重ねるごとに地域の理解と支援が得られ, 初めて地域で活動する生徒たちの不安や失敗に対しておおらかに対処して下さる事業所が多く, 生徒たちは今まで見たことのない豊かな表情で活動している。
- ・ 期間中の事業所入り口には, 学校で準備した「トライやる・ウィーク実施中」ののぼりやステッカーなどを表示していただき, 来客や地域の方への啓発を図っている。
- ・ 特殊学級在籍生徒は保育所で活動したが, メンバーの誰よりも早く登園して, 自分なりに幼児にとけ込もうと努力していた。本人の出身保育園でもあるため, 園長先生をはじめスタッフの方々に見守られて有意義に終了することができた。

イ 指導者・協力者

5日間のうち1日は校区推進委員会のメンバーで全事業所の巡回視察を行う。

(受入事業所と指導ボランティアの委託については, 3-(2)に記述)

ウ 生徒の活動状況

- ・ 体験期間中は家庭から直接事業所に通い, 指導を受ける。部活動にも参加しない。
- ・ 服装は体操服・制服を原則とする。(職場によっては制服等を借り受けられる場合もあり, 意欲向上につながった。)
- ・ 腕には「トライやる・ウィーク実施中」と明記した腕章を付ける。
- ・ 活動日誌に毎日記録して, 指導ボランティアに提出する。(指導ボランティア・保護者それぞれの感想も記入していただき, 生徒の活動意欲向上を図り, 相互の連絡に活用する。)
- ・ 原則として, 活動時間は1日6時間(9時~15時)とする。  
例外 \* うどんの製麺および配達のため早朝5時より11時  
\* 畜産・搾乳体験のため13時より18時



\* 14日(木)が定休日のため16日(土)に活動 等

## エ 教師の支援

- ・ 体験期間中は出欠確認，巡回指導，連絡調整，写真による記録のために，分担の事業所を訪問・巡回した。小規模校のため，他学年の授業や出張もこなしながらスケジュールを調整したが，学年担当の4人で1日に30の事業所を回ることは困難である。そこで，実施期間中にどの事業所も1回は必ず訪問することとして予定を立て，その日に訪問しない事業所については電話やFAX等を活用して連絡調整を図った。時間的にゆとりができたことによって生徒一人一人にきめ細かな指導ができた。
- ・ 集団生活に入りにくい生徒や障害のある生徒には，特に指導ボランティアと学級担任の綿密な打合せが必要である。友人関係について班編制時の配慮も大切である。

## オ 教材や用具

多様な活動を可能にするため，必要な教材や用具の経費はすべて補助金より支出する。  
主な購入物の例・・・油絵の具セット，イーゼル，陶土，長靴，フィルム  
啓発用のぼり，腕章，ステッカー等

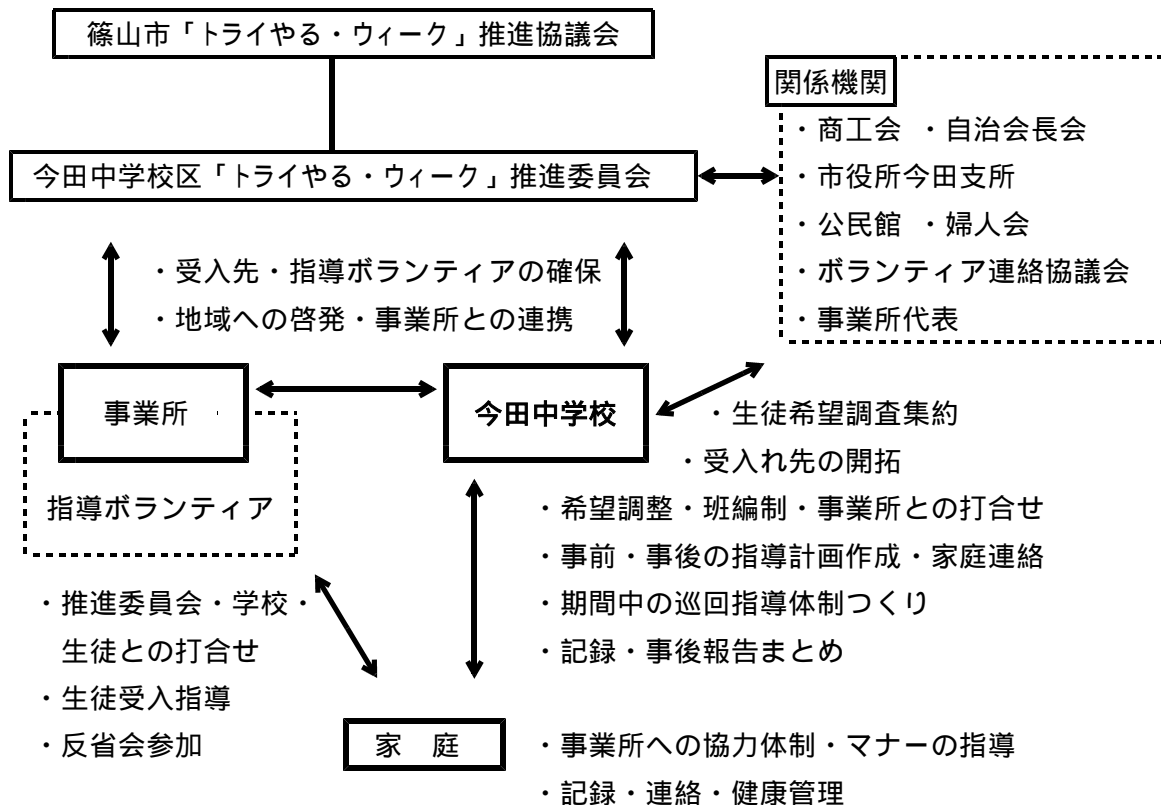
## (3) 事後の指導

- ア 事業所ごとに壁新聞作成(参観日や文化祭などにも展示)
- イ 事業所への手紙(終了直後のお礼状とその配達，年賀状送付，卒業時には挨拶状)
- ウ 体験作文集の製作と配布(生徒・事業所・保護者の感想，アンケート結果)

## 3 体験活動のための体制

(1) 学校の体制，家庭や地域，PTA，関係団体・施設・機関等との連携を次の図に示す。

【下記の校区推進委員会は4～6月に3回開催・期間中1日は巡回視察】



## (2) 活動の場や指導者の確保等の手だてや工夫

ア 今田町商工会の協力により，校区の全事業所に5日間の生徒受入れについて依頼状と調査

用紙を送付し、回答によって事業所・指導ボランティアのリストを作成した。保護者の協力者も増えてきている。

イ 生徒に希望職種を調査して、事業所数が不足の場合は、校区外でも事業所を開拓した。(マンネリ化を防ぎ、活動の主旨を地域に広げるためにも、新しい事業所開拓を積極的に進める必要がある。)

ウ 1事業所につき多人数にならないよう、1～2人を基本に班編制をする。

エ 教師が指導ボランティア(直接生徒の指導に当たっていただく方)との事前打合せを綿密に行う。

(3) その他

ア 安全確保のための配慮

- ・ 事前に通所経路や時間帯を調べておき、生徒自身で実地調査させておく。
- ・ 事前活動期間も含めて傷害及び損害賠償保険に加入し(公費負担)、活動中の事故や破損に備える。この補償は体験期間中の生徒・教職員・指導ボランティア全てに適用される。

イ 衛生上の留意点

次の事業所で体験する生徒は事前に検便を実施、事業所に結果を報告している。

(デイサービスセンター、幼稚園、保育園、飲食店、コンビニエンスストア)

ウ 活動に必要な経費について

「トライやる・ウィーク」推進事業補助金が兵庫県及び篠山市より交付される。限度額は1学級あたり30万円である。保険料や実習材料費等の必要経費はこの中から支出できるので、生徒の個人負担は昼食費用以外は必要ない。地域の指導者に対しては、ボランティアとして協力していただくため、講師料も不要となっている。

4 成果と課題

(1) 成果

【生徒に身についたこと】

- ・ 初対面の方とのアポの取り方や適切な敬語の使い方
- ・ 自分一人でもやり抜く強さ・自尊感情の高まり
- ・ 自分の進路選択に対する関心の高まり
- ・ 地域の自然や産業等についての知識・理解を深め、地域に支えられていることに感謝する態度

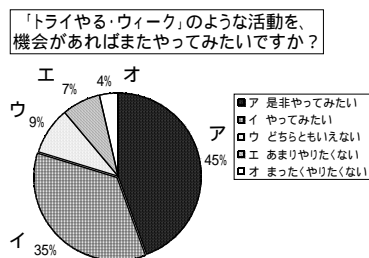
【教科等の学習指導への効果】

- ・ 自分に自信を持ち、将来に向けての基礎学習に前向きになる生徒が増えた。
- ・ 総合的な学習などにおける他の体験活動にも積極的に取り組む生徒が増えた。

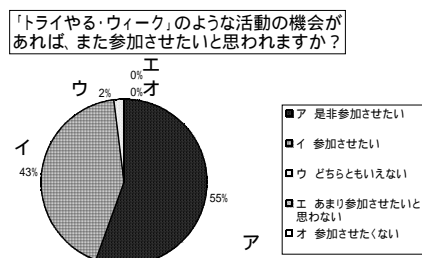
【教職員として】

- ・ 生徒たちの伸びやかで力強い一面を知ることができた。
- ・ 生徒を気持ちよく受け入れてもらうことに配慮して、指導計画を工夫することができた。
- ・ 地域の方々と深く関わる機会が増えたことで多くを知り、校区に対する理解と愛着が深まった。

生徒分



保護者分



## 【保護者として】

- ・ 子どもが社会体験を積むことで、家族や親の苦勞をより理解してくれるようになった。
- ・ 特に体験期間中に親子の対話が深まった。
- ・ 保護者自身も事業所に事前・事後の挨拶をしたり、活動日誌に記入するなど地域とのつながりをより深める機会となった。

## (2) 課題

- ・ 新たな事業所拡大のために、受け入れ依頼や地域への啓発をより積極的にする。
- ・ 同じ事業所に受け入れてもらう場合、活動の内容を工夫する必要がある。
- ・ 生徒が安易に楽な仕事を求めないように、家庭とも連携して事前指導に十分留意する。

最終日の午後三時、休憩時間を終えたあと彼は、帰宅準備をととのえイスから立ち上がり、五日間のお礼と自分の感想を大きな声で言い始めました。イスにすわったまま聴いていた私達事業所の者五人は、彼の真剣な表情に、思わず全員が立ち上がり、そのうちの一人は五日間の彼の積極的な取組とまじめな姿勢を想い、感激に胸をつませしていました。初めての受入れで私達も緊張しながらの一週間であっただけに、彼のその言葉を聞いて「本当に良かったなあ」と胸をなでおろしたとともに、この事業の本当の目的が理解できたような気がします。今後より多くの地域のみなさまの理解と、たくさんの事業所の受入れを期待し、トライやる・ウィークが地域全体の取組となって行く様願っています。

(事業所の方の感想文より)

## 5 今後の取組の方向

### (1) 次年度に向けての改善の方向

- ・ 活動自体は1週間であるが、前後の指導が非常に重要な意味を持つ取組である。とりわけ事前指導の中で、生徒が自分でどの体験活動を選び、それを実現させるためにどう努力するのかといった過程が大切である。新学習指導要領全面実施の年度に当たり、総合的な学習の時間、特別活動、道徳以外の領域でも関連する指導内容を押さえながら、限られた時間の中で体験の効果が持続するような指導計画を組んで進めたい。
- ・ 友だちの力に頼りがちな年齢であるが、あえて1～2人という少人数で体験させることが大切である。そのためには、幅広い受入事業所の確保が必要である。
- ・ 第1回校区推進委員会を前年度の3学期に開き、早期に受入事業所を確保し、体制を整えて6月実施にのぞみたい。

### 【本事例活用に当たっての留意点】

「地域に学ぶトライやる・ウィーク」は5年目を迎える。当校の実践は、その5年間の実績と成果に裏付けられた自負と自信を感じさせられる事例である。第一に、学校行事における体験活動、学級活動、総合的な学習の時間、道徳における事前・事後指導がしっかり関連づけられ構造化されていること。また、これらの過程が、それぞれきめ細かな工夫と配慮の下に展開されていることに注目したい。事前指導での職業調べ(インタビュー)、社会人講話、保護者説明会での決意表明、指導ボランティアとの連携、事業所でののぼりやステッカーの表示、事後指導における壁新聞やお礼状の作成、さらには、年賀状、卒業時の挨拶状の作成等々、雰囲気盛り上げ生徒の意欲を高めながら、社会的スキルや表現力などを育てようとする仕掛けが工夫されている。こうした構造化され創意工夫あふれる取組によって、生徒の内面の変容が大いに促進されることが期待される。